

平成24年度 第1回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年4月18日(水) 15:35～16:15
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉 中澤 一治、菊地 ひろ子、新井 秀一、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 倫理審査手順書に記載されているとおり、課題の実施が4月1日を越えて継続するとき、申請者は、課題の進捗及び成果を示す学術発表の資料を提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、継続および変更課題についての審議を行った。</p> <p>また、課題が終了したとき、申請者は課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、終了課題の報告を行った。</p> <p>継続22課題・変更11課題・終了1課題の申請があり、課題の妥当性について審議及び報告をした。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

平成24年度 第2回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年4月26日(木) 15:05～15:10
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 応接室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、中澤 一治 菊地 ひろ子、新井 秀一、牧野 繁雄
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-1 神経内科医長 鈴木幹也の申請によるパーキンソン病患者の予約外診療とその臨床的特徴</p> <p>パーキンソン病は、中脳黒質のドパミンニューロンが減少することにより、静止時振戦、筋強剛、無動などを呈する神経変性疾患である。鑑別になる他の神経変性疾患と比べ、PDは抗PD薬が著効し、進行が緩やかで、嚥下障害や呼吸障害の合併が少ないため、生命予後はよいとされています。</p> <p>本研究では、PD患者の臨床的特徴と予約外診療の内容から、どのようなPD患者がどのような理由で予約外受診をする可能性があるか検討し、日々のPD患者の診療の一助にすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>

平成24年度 第1回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年5月16日(水) 15:00～16:20
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、中澤 一治、菊地 ひろ子 皆木 規良、牧野 繁雄、飯野 和之、江角 時子、齋藤 隆宗
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題が終了したとき、申請者は課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、終了課題についての報告を行なった。また、課題の実施が4月1日を超えて継続するとき、申請者は、課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、継続および変更課題についての審議を行った。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

平成24年度 第2回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年7月11日(水) 15:00～16:25
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、中澤 一治、菊地 ひろ子、皆木 規良、牧野 繁雄、飯野 和之、齋藤 隆宗
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-2 リハビリテーション科医師 和田彩子の申請による脳卒中回復期患者の栄養療法 —活動係数の決定—</p> <p>脳卒中患者の栄養療法は、合併症や長期予後に関与するという報告があり、重要性も注目されているが、その基準に関する報告は少ない。</p> <p>本研究では、我々が過去に脳卒中回復期患者の提供エネルギー量を後方視的調査にて算出された活動係数を用いて栄養療法を行い、栄養状態の改善効果及びリハビリテーションに対する効果を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号12-3 統括診療部長 青山克彦の申請による非小細胞肺癌治療におけるペバシズマブ併用療法の検討</p> <p>近年、非小細胞肺癌領域で血管新生阻害剤ペバシズマブが承認され一定の効果を認めているが、実施臨床においての評価は未だ不十分である。</p> <p>本研究は、当院と春日部市立病院においてのペバシズマブに対する有効性及び安全性について症例を集積し解析することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号12-4 理学療法士 春山幸志郎の申請による脳卒中片麻痺患者における三次元骨盤アライメントの特徴</p> <p>脳卒中患者において骨盤の測定は、姿勢や体幹機能などの評価で利用されることがある。しかし、詳細な測定を評価し、機能レベルや歩行能力との関係を明らかにした報告は少ない。</p> <p>本研究では、姿勢計測器を用いて座位や立位における三次元的な測定を行い、特徴及び諸因子を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題④ 申請番号12-5 作業療法士 宮本なつきの申請による脳卒中片麻痺患者に対する随意運動介助型電気刺激装置 (IVES) の効果</p> <p>近年、脳卒中片麻痺上肢に対する新規治療法として、随意運動介助型電気刺激装置 (IVES) が注目されていて、効果が検証され始めています。</p> <p>本研究では、当院の入院・外来を含めたIVES適応患者を回復期群、維持期群に分け、作業療法訓練時のみ使用の手指機能実施前後で比較し、治療効果を検証す</p>

ることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 申請番号12-6 1-1病棟看護師 前垣小百合の申請による患者に沿う計画的な退院支援への取り組み ～退院チェックリストを通して～

当病棟は、今後回復期リハビリテーション病棟への移行にあたり、在日数日の短縮を図る必要がある。

本研究では、退院チェックリストを作成することにより、患者さまに沿う計画的な退院支援を行うことで在院日数の短縮・退院支援の充実につなげることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑥ 申請番号12-7 3-2病棟看護師 菅沼亜希の申請による在宅酸素療法疾患患者における社会資源活用状況の実態調査

当病棟の呼吸器疾患患者を中心に抗癌剤による化学療法や、疾患再燃に伴う入退院を繰り返す患者さまの多くは、在宅療養に移行し、退院時に社会資源を活用するケースが増えている。

本研究では、再燃に伴う再入院を避け、疾患と共存し在宅療養を送るための支援へと導くため、当院外来通院中の在宅酸素療法患者を対象として、社会資源活用状況を調査し、在宅支援に必要な援助について検討することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑦ 申請番号12-8 7南病棟看護師 棧原好美の申請による新棟移転に向けての筋ジストロフィー患者の思い

当院は、2012年秋に新病棟が完成し移転する予定である。当病棟の多くは、人工呼吸療法を必要とする重症筋ジストロフィーの患者さまが長期入院療養しているため、病棟は、医療の場であると共に生活の場である。

本研究では、移転に伴う様々な変化に対する患者さまの「思い」を、看護師より10～30分程度インタビューさせていただき、その結果を、病棟移転の際、活かすことを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑧ 申請番号12-9 8-1病棟看護師 鈴木美穂の申請による重症心身障害児(者)病棟看護師の看護倫理に関する調査

当病棟の入院患者は、重度の運動障害と知的障害があり、日常生活の全てに介助を必要としている。また、快・不快の表現が困難であるため看護者の主観的判断・評価に基づくケアが行われ、患者さまの示すサインや反応よりも処置やケアを優先した行動になっている。

本研究では、看護師の患者さまに対する倫理的配慮の向上のため、看護師のプライバシーの配慮に対する意識やどのような場面でジレンマを感じるかなど、看護倫理に関する意識を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議

した。

審議結果：承認

議題⑨ 申請番号12-10 10病棟看護師 尾上綾香・長根綾の申請によるSELQoL-DWを用いた筋ジストロフィー病棟におけるQoLの実態調査

筋ジストロフィーは根治困難な疾患であり、疾患の進行に伴い長期療養生活を余儀なくされている。現在、人工呼吸器の導入などにより、筋ジストロフィー患者は40歳を迎える方が多く、寿命は延びている。そのため、自立・自律能力を引き出すための援助や、自分自身の疾患と向き合い自分らしい生き方をみつけるための援助、QoLを尊重した看護が重要です。

本研究では、SEIQoL-DWを用いて当病棟入院中の筋ジストロフィー患者のQoLの意識を調査し、患者さまの思いに合わせた看護を提供できることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑩ 申請番号12-11 臨床研究部長 尾方克久の申請による脳病態総合イメージングセンター (IBIC) と連携したミオパチーの骨格筋画像解析に関する研究

骨格筋画像検査は筋疾患(ミオパチー)の診断、筋生検部位の決定、病状把握といった目的で実施され、臨床的に重要な検査である。多彩な筋疾患における各病型に特徴的な時間的・空間的筋障害パターンの解析、骨格筋の定量的評価方法の開発といった課題が取り組まれているが、筋疾患は何れの病型も稀少疾病であり、一施設での症例数が限られることが、研究を妨げる要因の一つである。

本研究では、国立精神・神経医療センター脳病態総合イメージングセンター (IBIC) により開発されたオンラインサポートシステムIBISSを用いて、筋疾患をおもに診療する多施設よりミオパチー症例の骨格筋画像および臨床データを連結可能匿名化して集積することで、系統的に幅広いミオパチー症例の骨格筋画像データベース (IBIC-NMD) を構築することとし、またその推進に寄与することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

平成24年度 第3回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年8月2日(木) 15:00~15:10
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 応接室
出席委員名	正田 良介、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、 中澤 一治、菊地 ひろ子、皆木 規良、牧野 繁雄
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-12 臨床研究部長 尾方 克久の申請による筋疾患患者の病状評価入院に関する医療経済学的検討</p> <p>長期間にわたり暖徐に進行する筋疾患においては、定期的な病状評価に基づく診療方針策定が重要である。わが国の医療保険における診療群分類(DPC)に基づく包括的診療報酬制度では、人工呼吸療法をはじめとした高度な生命維持療法を実施していても、筋疾患の入院診療報酬は定額とされている。筋疾患患者の病状評価入院の内容を全国的に均霑化するためには、医学的に必要と思われる病状評価の内容を医療経済学的に評価し、実施可能性を検証することが求められる。</p> <p>本研究では、モデルとなる病状評価の内容の出来高報酬と、実際にバリエーションなく病状評価ができて予定どおり退院した患者の実際の報酬とを比較し、さらにDPCでの包括的診療報酬額と比較して、定期的病状評価入院の内容を医療経済学的観点から吟味することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>

平成24年度 第3回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年9月19日(水) 15:00～17:15
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 小会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、中澤 一治、菊地 ひろ子、皆木 規良、牧野 繁雄、飯野 和之、江角 時子、齋藤 隆宗
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-13 機能回復部門部長 大塚友吉の申請による「脳卒中患者の排尿障害の経過と脳損傷部位との関係」</p> <p>脳卒中のリハビリテーションにおいて、排尿障害の管理は重要であり、ADLの自立が大きく関わっている。しかし、過去の報告は主に膀胱機能に着目したものがほとんどであり、尿意に関する報告はほとんどない。そこで、今回脳卒中患者さまのリハビリテーション期における尿意の経過と病巣を、診療録より後方視的に調査し、関連を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号12-14 3-1病棟看護師 岸本裕美の申請による「責任ある看護ケア実施に向けての業務改善の効果」</p> <p>当病棟では、5年前から短期入院患者を受け入れてきた。以前、師長・副師長指導の下、業務改善係が中心となりスタッフ一丸で、部屋受け待ち看護師が責任を持ってケアできるシステムを構築した。その結果、超過勤務時間削減・責任ある看護ケアに繋げることができた。</p> <p>本研究は、業務改善に対するスタッフの意識に変化があったのかを明らかにし、今後の業務改善の指標にすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号12-15 3-1病棟看護師 小島雄介の申請による「神経内科病棟における木酢液を使用した排泄臭改善に関する調査」</p> <p>当病棟では、寝たきりの状態のためオムツを使用し床上排泄を余儀なくされている患者さまが大半を占めている。それにより、排泄時やおむつ交換時には排泄臭による不快な臭いが発生している。</p> <p>本研究では、当病棟看護師を対象に現在の排泄臭について、意識調査を行い、安全で取り扱いやすく消臭効果があるとされる木酢液を使用した排泄臭改善を行い検証することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題④ 申請番号12-16 3-1病棟看護師 阿部奈津美の申請による「看護職者の口腔ケアの現状と意識調査」</p> <p>当病棟では、神経難病の患者さまが半数以上、他に呼吸器科や内科の患者さまが入院している。患者さま、神経難病や高齢に伴う意識障害、ADLの低下があり、自己による口腔ケアが困難であるため、口腔ケアは毎日看護師が行っている。</p>

本研究では、看護師それぞれが、口腔ケアについてどのように考えているかを明らかにし、現状を把握することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 申請番号12-17 6-2病棟看護師 房田笑佳の申請による「体動困難な患者の踵部における効果的な圧力分散方法の検討」

当病棟は、神経難病などにより自力で体動をする事が困難になり体位の変換、調整に看護が必要な患者さまが多数入院している。神経難病患者においては病気の進行とともに嚥下機能の低下による栄養状態の悪化や病的骨突出、寝たきりによる関節の拘縮・筋緊張・オムツによる皮膚湿潤など褥瘡のリスクが高くなる。

本研究では、身体と接触面に発生する圧力を測定し数値化する機器としてパームQ(携帯型接触圧力測定器)を使用し、踵部における効果的な圧力分散方法を検討し、褥瘡発生の予防を図ることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑥ 申請番号12-18 6-2病棟看護師 神垣さやかの申請による「交代勤務を行う看護師の睡眠感調査」

現在、日本の労働人口の約20%が交代勤務をしており、当院も行っている。交代勤務をしている人の30%は睡眠障害を訴えているといわれている。

本研究では、当院に勤務する看護師に睡眠障害のアンケートをとり、どのくらいの人か睡眠障害を抱えているのかまた、実際どのようにしたら睡眠障害を改善できるのかを明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑦ 申請番号12-19 薬剤師 鳥海真也の申請による「がん化学療法時に誘発された筋ジストロフィー患者の思い

がん化学療法中の患者において、しばしば吃逆を認めることがある。吃逆は、日常生活において支障が生じることがあり、Quality of lifeの低下を招くこともある。

本研究では、がん化学療法施行時に出現する吃逆の出現率と症状、関係のある患者因子について検索することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑧ 申請番号12-20 作業療法士長 小林茂俊の申請による「Duchenne型筋ジストロフィー患者における特殊ナースコールからマルチケアコールに移行する為の適応条件の分析」

Duchenne型筋ジストロフィー患者のナースコールは、進行の程度に合わせ残存機能の状況や、人工呼吸器の装着、環境制御装置の使用やパソコン使用も配慮して選択する必要があるため、通常のナースコールでは対応できず、特殊ナースコールとして使用している。しかし、医療安全上や特殊ナースコールの保守・管理上問題のある場合もある。

本研究では、当院入院中のDuchenne型筋ジストロフィー患者に特殊ナースコールからマルチケアコールに移行した場合の問題点を分析し、更にマルチケアコー

ル導入同意者の中から、マルチケアコール24時間7日間使用時の病棟管理、患者使用状況を検証することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑨ 申請番号12-21 8-1病棟看護師 長谷川睦の申請による「口腔内乾燥が強い重症心身障害児(者)への保湿剤の効果」

当病棟、重症心身障害(児)者は、栄養補給法として経管栄養を実施している。その為、経口摂取していれば分泌される唾液のメカニズムが正常に働かない。また、常時開口と口呼吸を行っている為、口腔内が乾燥している。よって、唾液分泌量の低下や口腔乾燥により自浄作用が低下し細菌繁殖を助長させ清潔が保てない。

本研究では、病棟で水を流し吸引後保湿剤塗布する口腔ケアについて、保湿剤の変更と塗布回数や口腔内への塗布方法を検討し、口腔内を湿潤させることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑩ 申請番号12-22 研究生 恩田理恵の申請による「筋ジストロフィー患者と脳卒中患者における嚥下造影検査による摂食・嚥下障害の特性」

Duchenne型筋ジストロフィーは、全身性で進行性の筋疾患であり、徐々に嚥下障害が進行する。一方、脳卒中患者における摂食・嚥下障害は、おおよそ急性期には約30%~60%の高率で発生するが、その多くは、数日から1ヶ月程度で回復し、摂食・嚥下障害が慢性期まで持続する例は約10%といわれている。

本研究では、Duchenne型筋ジストロフィー患者と脳卒中患者の摂食・嚥下時のビデオ嚥下造影(VF)検査の結果を用い、摂食・嚥下障害の特性および適切な食事管理の検討と、対象者の食形態などの基礎的なデータを得、疾患による摂食・嚥下障害の特性を把握し、病態の経過とともに食事形態の変更や摂食時の体位などを検討するべく栄養食事管理の一助とすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑪ 申請番号12-23 主任栄養士 青木緩美の申請による「筋ジストロフィー患者のQOLと栄養評価の検討～適切なエネルギー量を摂取するための食事提案に向けて～」

筋ジストロフィー患者は食生活で問題・不安を抱えている人が多く、医師からの栄養食事指導の依頼内容でも体重コントロールや食形態に関する事項が多い。

本研究では、栄養食事指導や体重変化、VF検査等の結果を検証し、食形態の工夫や栄養バランス面でかけているものを補うための食事提案を検討することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑫ 申請番号12-24 栄養士 富井三恵の申請による「健康食品に対する意識調査
健康食品の利用の問題として、健康食品を病気の治療に用いているケースが考えられる。日頃から何かしらの医薬品を摂取している人の場合、医薬品との併用が

問題となる。医薬品と健康食品の相互作用により、適切な治療効果が得られない可能性が生じるだけでなく、副作用が増強してしまう可能性があり、その場合、医療関係者は健康食品の利用を知らないために、適切な処置が遅れる。

本研究では、アンケート調査により、消費者の誤った健康食品の利用実態を、特に医薬品の服用との関連に焦点を当て明らかとし、正しい知識を身に付けてもらうための資料を作成することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑬ 申請番号12-25 栄養士 山下未侑の申請による「がん患者における健康食品の利用実態と意識調査」

健康食品の利用の問題として、健康食品を病気の治療に用いているケースが考えられる。がん患者の半数くらいが健康食品を利用しているという調査結果が報告されているが、医薬品と健康食品の相互作用により、適切な治療効果が得られない可能性が生じるだけでなく、副作用が増強してしまう可能性がある。

本研究では、特にがん患者の健康食品の利用実態に焦点を当て、意識調査を行うことを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑭ 申請番号12-26 7東病棟看護師 江藤眞保の申請による「東日本大震災のケアの状況と今後の課題 第二報 -筋ジストロフィー病棟、災害時の初動の検討-」

大震災後一年を経過し、医療・看護現場から多くの問題点や課題の解決がなされてきたが、入院患者の71%が人工呼吸器を使用している当病棟における「災害時の具体的な行動指針が必要」という課題の改善は行われていない。また、当病棟内で多職種が協同して働いている環境の中で、災害時にそれぞれの職種が協調して防災に取り組むことが必要である。

本研究では、地震発生時の初動について、当院筋ジストロフィー病棟勤務の看護師・指導員・保育士・療養介助員・業務技術員を対象に、当院の「地震時の行動基準」を基にした勉強会を実施し、「地震発生時の具体的な行動」のフローチャートの作成と評価を行うことを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑮ 申請番号12-27 7東病棟看護師 東口奈美の申請による「各自が行っている手荒れ対策による水分量と皮膚状態の違い」

看護師は一日の手指衛生実施回数が非常に多い。主な目的は手指から汚染物と、病原体を除去することで手指を介した交差感染から患者さまを守ると同時に医療従事者を病原体から守ることができる。しかし、看護師は頻回な手指衛生の実施により、乾燥・亀裂・発赤などの手指の損傷、いわゆる手荒れが起こりやすくなる。また、手荒れをした皮膚は細菌が繁殖しやすく感染のリスクが非常に高いため、手荒れ予防と手荒れ対策が非常に重要である。

本研究では、病棟スタッフの手の皮膚症状を把握し、手荒れの予防法・対策を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑯ 申請番号12-28 7東病棟看護師 山口睦美の申請による「口腔閉鎖不全と舌突出による舌乾燥を防ぐ為の口腔ケア」

筋ジストロフィーは徐々に疾患が進行し、筋力低下、筋萎縮、体の変形がみられる。多くの患者に開口障害、口腔閉鎖不全や巨舌による舌突出等の口腔機能障害が見られ、自浄作用や唾液分泌が低下し口腔が乾燥している状態である。舌突出により舌が乾燥し粘膜上に痂皮状の汚染物がみられ、除去しても再付着を繰り返すため、粘膜上で細菌が繁殖し誤嚥性肺炎を起こす危険性が高くなる。

本研究では、乾燥を防ぐと考えられる口腔ケアを実施し、唾液湿潤度検査用紙を用いて評価し、舌乾燥を防ぐための口腔ケアの方法を検証することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑰ 申請番号12-29 10病棟看護師 菊池友里の申請による「筋強直性ジストロフィー患者に対する看護師の関わりの検証」

スタッフは、難聴、構音障害がある筋強直性ジストロフィー患者に対して、コミュニケーションの困難さや患者の先入観から、説明しても理解を得ることは困難である。しかし、筆記にて理解が得られるまで十分な時間をとりコミュニケーションを行なったことで、患者の行動変容がみられた。

本研究では、患者との関わりを逐語録におこし検証し、振り返ることで患者理解のきっかけにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑱ 申請番号12-30 1-2病棟看護師 戸矢栄美子の申請による「結核患者の内服治療継続に向けた看護支援の検討～服薬手帳を活用した支援マニュアルの作成を実施して～」

結核治療は、患者自身が服薬の重要性を理解し、確実に服用できることが重要である。当病棟では、これまでに新たな服薬手帳を作成し、入院中から患者が手帳をもとに服薬管理を行なうことで、患者が内服治療の重要性を理解でき、退院後の治療が継続できるよう取り組んでいる。

本研究では、手帳を活用した看護師による支援マニュアルを作成し、結核患者の内服治療継続に向けた看護支援を検討することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑲ 申請番号12-31 1-2病棟看護師 川元真紀の申請による「局所陰圧閉鎖療法による褥瘡ケアに携わる看護師のチェックリスト作成～V.A.C.ATSシステムを用いた介入の一症例～」

褥瘡ケアにおいては従来の方法に加え、局所陰圧閉鎖療法の導入がなされた。局所陰圧閉鎖療法は、1960年代に報告された創部の乾燥を防いで治癒を促すという湿潤療法に、過剰な浸出液をドレナージする陰圧療法を加えることにより完成された療法である。局所陰圧閉鎖療法の導入に当って、ケアの方法、観察・チェック項目

の変化が予想され、褥瘡の治癒過程そのものの変化を検証していく必要がある。

本研究では、看護師のためのチェックリストを新たに作成し、今後のケアプロセスに役立てることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑳ 申請番号12-32 1-2病棟看護師 江戸理恵子の申請による「原因不明の嘔吐を繰り返す高齢患者に対する看護介入の考察」

「食」に対する看護は人間の基本的欲求に関わる重要な意味をもち、老人にとって食事とは、①生命維持のために不可欠なもの②生理的・身体的機能の低下した老人の疾病からの回復のための基本的手段③精神的満足感・幸福感をもたらすものである。

本研究では、高齢による消化器機能低下・原因不明の嘔吐を繰り返す患者に対し、他部門との連携・看護介入の結果、嘔吐による苦痛を軽減し、本人の「食べたい」という希望かなえ、嘔吐を極力せず経口摂取でき、QOLの維持へ結びつけることが出来た事例の検証をすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題㉑ 申請番号12-33 8-2病棟看護師 神谷裕代の申請による「重症心身障害児(者)の自食摂取に向けた取り組み」

食事は、人間が生きていく上で最も基本的な欲求であり、生命維持の原点である。重症心身障害児(者)は、身体的・精神的特徴による摂食機能の障害により、自力での摂取へ結びつけることが困難な場合が多い。当病棟では、月に1回、他部門との合同(歯科医師、OT、栄養士、保育士、特別支援学校教員による)カンファレンスを行ない患者個々に合わせた摂食訓練を行なっている。

本研究では、訓練により概ね摂食・嚥下機能の獲得が図れた患者で、手と口の協調動作訓練を通して、介助食べから自食へ結び付けることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題㉒ 申請番号12-34 8-2病棟看護師 小林菜緒子の申請による「重症心身障害児(者)の口腔内乾燥予防のための口腔ケア」

当病棟では、含嗽水と水ブラッシングで1日1回の口腔ケアと、特に乾燥が強い患者に対して、1日1回口腔ケア直後に保湿ジェルを目分量で塗布している。

本研究では、乾燥予防に重点を置き、保湿ジェルの塗布量と回数を見直し、ケア前後の乾燥の程度を観察し、乾燥が軽減する口腔ケアの方法を検討することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題㉓ 申請番号12-35 3-2病棟 鈴木清美の申請による「HIV/AIDS外来受診患者の療養支援に関する実態調査」

HIVは近年治療が進行し抗HIV薬を内服することによってコントロール可能な慢性疾患へとってきている。しかし、その一方で一生内服しなければならず患者のセル

フマネージメント力が必要不可欠である。

本研究では、通院中のHIV患者に対して疾患や内服に対する知識や不安、理解度についてアンケート調査を行い患者の現状を明らかにする。また、患者に正しい知識を補い不安を緩和することで、患者のセルフマネージメント力が向上し、外来療養支援が充実できることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題④ 申請番号12-36 3-2病棟看護師 森杏美の申請による「術前オリエンテーションの現状と課題」

当病棟は、呼吸器外科・内科病棟で、手術前には必ず術前のオリエンテーションとは、せん妄予防や手術への不安が軽減するという結果が出ている。

本研究では、新しいオリエンテーションの教材を作成し、患者の理解度を明らかにする。また、聞き取り調査から課題を明確にすることで、オリエンテーション内容の充実および統一化を図ることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

平成24年度 第4回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年10月17日(水) 15:35～15:45
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、尾方 克久、堀場 昌英、中澤 一治、菊地 ひろ子、皆木 規良 水野 誠二、飯野 和之、江角 時子、齋藤 隆宗、片山 利明
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-37 臨床研究部長 尾方 克久の申請による「筋ジストロフィー病棟における患者の社会的相互作用を促進するための保育士の役割」</p> <p>筋ジストロフィーの症状が進行し入院生活を送る患者さんは、自分と同じ疾患を持つ患者さんと毎日共に生活することで共感できることもあれば、次々変化していく他者の様子を見て不安が募るのではないかと考えた。</p> <p>本研究では、患者間に生じる感情や患者同士のかかわりにどのような印象をもつか、また長期入院する患者の質をどのように支援しているかについて、筋ジストロフィー病棟に勤務する保育士の役割を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

平成24年度 第4回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年11月21日(水) 15:00～15:45
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、中澤 一治 菊地 ひろ子、皆木 規良、水野 誠二、飯野 和之、齋藤 隆宗
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-38 栄養士 富井 三恵の申請による「肺がん化学療法中患者における味覚障害の検証」</p> <p>がんは日本人死亡率の第一位であり、がん治療(抗がん剤、放射線治療)は急速に全国的に普及している。がん治療が進歩する中、抗がん剤治療によって食事の臭いが誘引し嘔気を起こす方、味覚異常を訴える方は相当数存在する。</p> <p>本研究では、肺がんの抗がん剤治療(化学療法)中の患者を対象に全口腔法を用いた味覚調査(甘味、塩味、酸味、苦味)を行うことで、肺がん化学療法中患者における味覚障害を検証することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号12-39 2北病棟看護師 内田 しのぶの申請による「療養介助員が安全に患者ケアを行えるようになるための効果的な指導方法:看護師と介助員との連携による効果」</p> <p>筋ジストロフィー病棟では、人工呼吸器を付けている患者も多く、介助する側は、疾患の理解や安全な介助方法を習得しなければならない。新人看護師に対してはプリセプターシップによる教育が行われているが、療養介助員においては特別な指導手順はない。しかし、今年度より業務技術員の導入で療養介助員が患者ケアに介入ことが多くなった。</p> <p>本研究では、新人介助員が安全に対する知識を持ち、患者ケアに対応できるようになる為にはどのような指導方法が効果的であるかを知り、系統立てた新人指導案を作成することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号12-40 2北病棟看護師 福田 宏美の申請による「関節拘縮と体幹変形があるDMD患者に効果的なポジショニング」</p> <p>ディシェンヌ型筋ジストロフィー患者は、体幹変形や関節拘縮がある為、自力での体動が困難である。2時間おきの体位変換を行っても、マットとの接触面が広い支持が出来ていないとすぐに疼痛が出現してしまう場合が多い。</p> <p>本研究では、対象者個々の身体的特徴(体幹変形、関節拘縮、骨突出の程度や部位)を加味し、どのようなポジショニングを行えば、昼夜を通して疼痛の出現を最小限にし、安楽に過ごせるかを明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

議題④ 申請番号12-41 2南病棟看護師 石川 英里奈の申請による「進行性筋ジストロフィー患者の病状進行に伴う気持ちの変化」

筋ジストロフィー患者は入院生活を送っていく中で、他の筋ジストロフィー患者の病状を目の当たりにし、自身も同じような経過を辿っていくことは認識していると考えられるが、病状は認識しているが理解出来ないことで、受け入れに繋がっていない。また、病状の進行に伴い気持ちが変化し、生活も変化している。

本研究では、患者の気持ちを調査することで病状進行に伴う心理的变化を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題が終了したとき、申請者は課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、1課題の終了についての報告を行なった。

平成24年度 第5回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成24年12月27日(木) 15:00～15:10
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 応接室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉 中澤 一治、菊地 ひろ子、皆木 規良、水野 誠二
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-42 主任栄養士 藤田かほるの申請による「デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者における栄養評価の検討」</p> <p>筋ジストロフィー患者において、呼吸障害の進行に応じ、必要栄養量が大きく変化するを指摘してきた。適切な栄養評価の実施と適切な時期における低栄養患者の早期スクリーニングが可能となれば、栄養状態の改善、患者QOLの維持・向上に繋がると推察される。</p> <p>本研究では、呼吸障害ステージ別に、栄養摂取量の現状を把握し、積極的栄養介入が必要な時期、および栄養評価の指標と算出方法を見出すことを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>

平成24年度 第6回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成25年1月10日(木) 15:00～15:10
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 応接室
出席委員名	青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、中澤 一治、菊地 ひろ子 皆木 規良、水野 誠二
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-46 栄養管理室長 宮内真弓の申請による「長期経腸栄養管理患者への管理栄養士の役割に関する研究」</p> <p>日本人の高齢化の進展における認知症や脳血管障害の増加に加え、NST活動の全国的な広まりにより、経腸栄養管理を施行される患者が増加している。NSTでの管理栄養士の役割として、経腸栄養における管理法の指導や、栄養剤の選択についても望まれることから、経腸栄養管理を施行している患者に対しての、管理栄養士の役割の明確化が今後課題と思われる。</p> <p>本研究では、経腸栄養を施行している患者に対する管理栄養士の係わりについて実態調査を行い、役割を明確化することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題の内容を変更するときは、課題の変更内容に準じて修正したものを申請しなければならないため、1課題の変更についての審議を行なった。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

平成24年度 第5回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成25年1月16日(水) 15:00~16:00
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、中澤 一治 菊地 ひろ子、皆木 規良、水野 誠二、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-43 呼吸器科専修医 増田 貴史の申請による「脊椎カリエスの病態と粟粒結核との関連についての検討」</p> <p>当院における脊椎カリエスは粟粒結核との合併が多く高齢女性に多い傾向を認めた。</p> <p>本研究では、脊椎カリエスあるいは粟粒結核を発症した症例を対象とし年齢・性別・検査成績・基礎疾患の有無・入院中の死亡数などを検討し、両病態の関連を検討することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号12-44 作業療法士長 小林 茂俊の申請による「筋萎縮性側作硬化症患者のQOLと作業に関する自己評価」</p> <p>神経難病患者のQOL(Quality of Life)評価は当初、健康な人の評価を基につくられたものであり、神経難病患者のQOLを十分に捉えられなかったため、疾患ごとに新しいQOL評価表が作られるようになった。作業療法分野で用いられているクライアント中心の考えに基づく「作業に関する自己評価Occupational Self Assessment (OSA)」がALS患者のQOL評価に役立つと考えた。</p> <p>本研究では、OSAの評価を用いてALS患者のQOL評価を測定出来るかどうかを検証する。また、標準化されている他のQOL評価を合わせて行いOSAの有効性を証明し、作業療法士のALS患者のQOL評価に役立てることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号12-45 リハビリテーション科医師 大高 恵莉の申請による「日本語版BESTest及びMini-BESTestによるバランス機能評価の信頼性・妥当性の検討」</p> <p>米国で開発されたバランス機能評価法、BESTest及びMini-BESTestを標準的に用いられるGuillemin's guideline に従って翻訳し、暫定的な日本語版をまとめる。次に異なる翻訳者がその日本語版を再び英語に翻訳して原版との比較検討を行いこれをもとに日本語版を修正する。患者対象のパイロットテストによりさらに修正を加え、最終的な日本語版の試案とする。</p> <p>本研究では、最終的な日本語版を当院の脳血管疾患または神経筋疾患患者において実施し、内的整合性・検者間信頼性・Berg Balance Scaleなどの他の検査法との妥当性を検討することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

	<p>議題④ 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題の内容を変更するときは、課題の変更内容に準じて修正したものを申請しなければならないため、2課題の変更についての審議を行なった。</p> <p>また、課題が終了したとき、申請者は課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、3課題の終了についての報告を行なった。</p>
--	---

平成24年度 第7回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成25年2月28日(木) 15:00～15:05
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 応接室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、中澤 一治、菊地 ひろ子 皆木 規良、水野 誠二
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	【審議事項】 議題② 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題の内容を変更するときは、課題の変更内容に準じて修正したものを申請しなければならないため、1課題の変更(調査対象期間延長、調査対象病院追加)についての審議を行なった。 審議結果：承認

平成24年度 第6回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成25年3月13日(水) 15:00～15:10
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、中澤 一治 菊地 ひろ子、水野 誠二、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号12-47 5階病棟看護師 鈴庄仁美の申請による「Duchenne型筋ジストロフィー患者の褥瘡発生の特徴についての検討」</p> <p>当院の筋ジストロフィー病床稼働率は常時95%を超えている。さらに日常生活動作が日常生活自立度C2(自力で寝返りをうつことが出来ず、1日中ベッド上で、排泄・食事・着替えは介助が必要)の患者が8割以上を占め、ブレイデンスケール14点以下の患者は8割以上を占め、褥瘡発生のリスクは非常に高いといえる。</p> <p>本研究では、Duchenne型筋ジストロフィー患者が褥瘡を発生した時の機能障害程度に着目し、聞き取り及びカルテ調査を行うことで、褥瘡発生時の共通点を明らかにすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>